

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度～令和2年度)

主な成果	高齢化率の高い地域において、数多くのサロンを継続し続けるとともに、新規サロンの増設も行い、高齢者の健康づくりや外出機会の創出に繋がったり、地域の実情に照らし事業優先度の高い「支え合い活動」強化のため、既存の事業を精査、廃止により担い手の一部創出に繋がった。また、近隣の施設と連携して買い物支援の仕組みをつくった。
今後の課題	①担い手の高齢化 ②担い手不足とそれに伴う安定した事業運営(継続) ③地域活動の基盤となる町内自治会の機能低下 ④地域活動への理解や関心の希薄化 ⑤コロナ禍での安全・安心な事業実施 ⑥町内自治会との連携 ⑦事業の安定的運営のための財源確保 ⑧イベント実施時の活動拠点への参集

令和3年度の取組の方向性	コロナ禍のため安心安全な事業運営を前提に、重点項目に設定した取り組みを継続的に実施する。また、3年間の計画推進の結果、課題となったことに対しては行政や各関係機関とも連携し解決に向けた方策の協議も行っていく。
--------------	---

◆取組みテーマ別達成状況

【達成状況の目安】 S:目標を上回った。 B:一部目標を達成した。(5～7割)
A:概ね目標を達成した。(8～10割) C:大きく目標を下回った。(～4割)

取組みテーマ	重点取組項目数	達成状況	主な取組み実績
1 見守りの仕組みづくり	9	S 0 A 7 B 2 C 0	・地域の諸団体が連携し、見守り・支え合い活動の地域展開に向けた機運醸成のための「向こう三軒両隣活動」などを推進した。 ・民生委員が中心となり町内自治会と連携し、活動を開始した。 ・町内自治会と連携し、要支援者支援体制を構築した。 ・災害時の見守り・声かけ事業として、安否確認訓練を毎年実施している。
2 高齢者を支える仕組みづくり	7	S 0 A 6 B 1 C 0	・広報紙やイベントでの活動の広報とボランティア募集を行った。 ・ご近所すけあい活動を強化するため、既存事業の見直しを実施した。 ・障害者施設と連携し、買い物支援の仕組みをつくり試行した。 ・町内自治会における支え合いカードを活用した災害時要支援者対策の仕組みづくりを行った。
3 障害者を支える仕組みづくり	3	S 0 A 2 B 1 C 0	・障害者とその家族とのふれあいバス旅行を実施した。 ・障害者施設のイベントへ参画した。 ・ユニバーサルデザインを意識したまちづくりのために、障害者週間にフォーラムを実施したり、障害者とその家族の居場所や地域との交流の機会を提供した。
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり	2	S 0 A 1 B 1 C 0	・ヘルスメイト、民生委員等と協力して子ども食堂を開催したり、コロナ禍においてはフードパントリーを実施した。 ・管理・運営している農園に園児・児童を招き収穫体験を実施した。 ・民生委員、主任児童委員、保健福祉推進員等と協力し子育てサロン(9地区13)を実施した。 ・地域のこども向けのイベントや小学校のフェスタの支援を行った。
5 健康づくり	2	S 1 A 0 B 1 C 0	・多種多様なサロンを継続実施しつつ、新規サロンを増設、健康づくり、外出機会を創出した。 ・既存のサロンで健康体操実施の時間を設けた。 ・いきいきサロン(13地区144)や散歩クラブ(6地区20)を実施した。 ・7月、8月の期間に3世代を対象としたラジオ体操を実施した。
6 防犯・防災に対する取組み	5	S 0 A 2 B 3 C 0	・民生委員、青少年育成委員、保護者による合同パトロールを継続実施した。 ・小学校・公民館に避難所運営委員会を設立、研修会を実施した。 ・一部の自治会において避難所運営マニュアルの見直しを行ったり、感染症対策に対応した避難所運営の見直しを行った。 ・自治会ごとに防災マップを作成、毎年更新している。
7 担い手の拡大とボランティアの促進	8	S 0 A 6 B 2 C 0	・広報紙の発行、ボランティア講座やイベントの実施により地域活動のPR、ボランティア募集を行った。 ・既存の事業の見直しを行い、2事業を廃止し担い手の一部確保に繋がった。 ・あんしんケアセンターと連携し、「認知症の声かけ体験」を実施した。
8 福祉教育・啓発	12	S 0 A 9 B 3 C 0	・近隣の小学校と赤い羽根共同募金の街頭募金を行った。 ・あんしんケアセンターと連携し、「認知症の声かけ体験」を実施した。 ・福祉まつりを開催し、こども向けの福祉体験コーナーを設け啓発を行った。
9 地域のつながりづくり	11	S 0 A 9 B 2 C 0	・世代間交流ができる「流しそうめんとすいか割」、「もちつき大会」のイベントを開催した。 ・音楽会を通して地域のつながり、世代間交流の機会を創出した。 ・まちづくりについての語らい・学習の場(「みんなの学校」)を通して地域のつながりの場を創出している。 ・福祉まつりやURと連携した夏休み「ふくしの広場」を実施し、地域住民の交流の場を創出した。
10 相談支援体制と情報提供の充実	2	S 0 A 1 B 1 C 0	・あんしんケアセンターと連携し、サロン時に相談コーナーを設けたり、身近な問題をテーマにした講演会を実施し情報提供に努めた。 ・ホームページを開設し、地域情報について発信した。 ・12地区において、広報紙を発行し地区部会活動のPRを行った。
合計	61	S 1 A 43 B 17 C 0	

◆コロナ禍における好事例等

<p>積橋地区部会</p> <table border="1"> <tr> <th>取組内容</th> <th>フードパントリーの実施</th> <th>重点取組項目としての設定</th> <th>あり</th> </tr> <tr> <td colspan="4"> <p>コロナ禍で計画されていた事業が中止される中、通常のこども食堂の開催による食事の提供の代替事業として、食品配布をするフードパントリーを2回実施した。初回は、子ども食堂に参加したことのある方に案内を送付し、希望者に配達する形式で実施された。2回目は、小学校や近隣の店舗に協力を仰ぎ、チラシの配布・掲示を行ったり、町内自治会の回覧で広報を行い、先着順で配布会場にて配布する形式で実施された。</p> </td> </tr> </table>	取組内容	フードパントリーの実施	重点取組項目としての設定	あり	<p>コロナ禍で計画されていた事業が中止される中、通常のこども食堂の開催による食事の提供の代替事業として、食品配布をするフードパントリーを2回実施した。初回は、子ども食堂に参加したことのある方に案内を送付し、希望者に配達する形式で実施された。2回目は、小学校や近隣の店舗に協力を仰ぎ、チラシの配布・掲示を行ったり、町内自治会の回覧で広報を行い、先着順で配布会場にて配布する形式で実施された。</p>			
取組内容	フードパントリーの実施	重点取組項目としての設定	あり					
<p>コロナ禍で計画されていた事業が中止される中、通常のこども食堂の開催による食事の提供の代替事業として、食品配布をするフードパントリーを2回実施した。初回は、子ども食堂に参加したことのある方に案内を送付し、希望者に配達する形式で実施された。2回目は、小学校や近隣の店舗に協力を仰ぎ、チラシの配布・掲示を行ったり、町内自治会の回覧で広報を行い、先着順で配布会場にて配布する形式で実施された。</p>								
<p>こてはし台中学校区地区部会</p> <table border="1"> <tr> <th>取組内容</th> <th>安心、安全な見守り活動の実施</th> <th>重点取組項目としての設定</th> <th>あり</th> </tr> <tr> <td colspan="4"> <p>地区内の高齢化率の上昇に伴い、4期計画において「見守り活動の実施」を重点取組項目に設定し、令和2年5月より75歳以上の独居と2人世帯の方を対象に活動が開始された。開始時期がコロナ禍であったが、地域内の見守り活動の重要性に鑑み、見守り対象者にマスクや手拭き用アルコール除菌ウェットティッシュ、見守り会員に体温計、パルスオキシメーターを配付し、安心・安全な事業実施に努めた。</p> </td> </tr> </table>	取組内容	安心、安全な見守り活動の実施	重点取組項目としての設定	あり	<p>地区内の高齢化率の上昇に伴い、4期計画において「見守り活動の実施」を重点取組項目に設定し、令和2年5月より75歳以上の独居と2人世帯の方を対象に活動が開始された。開始時期がコロナ禍であったが、地域内の見守り活動の重要性に鑑み、見守り対象者にマスクや手拭き用アルコール除菌ウェットティッシュ、見守り会員に体温計、パルスオキシメーターを配付し、安心・安全な事業実施に努めた。</p>			
取組内容	安心、安全な見守り活動の実施	重点取組項目としての設定	あり					
<p>地区内の高齢化率の上昇に伴い、4期計画において「見守り活動の実施」を重点取組項目に設定し、令和2年5月より75歳以上の独居と2人世帯の方を対象に活動が開始された。開始時期がコロナ禍であったが、地域内の見守り活動の重要性に鑑み、見守り対象者にマスクや手拭き用アルコール除菌ウェットティッシュ、見守り会員に体温計、パルスオキシメーターを配付し、安心・安全な事業実施に努めた。</p>								
<p>花見川地区部会</p> <table border="1"> <tr> <th>取組内容</th> <th>新型コロナウイルス感染症及び地域情報の継続的発信</th> <th>重点取組項目としての設定</th> <th>なし</th> </tr> <tr> <td colspan="4"> <p>地区部会事業が中止されているため、令和3年1月より地区部会の広報紙を毎月発行し、「新型コロナ感染症情報」や地域情報を継続して発信している。</p> </td> </tr> </table>	取組内容	新型コロナウイルス感染症及び地域情報の継続的発信	重点取組項目としての設定	なし	<p>地区部会事業が中止されているため、令和3年1月より地区部会の広報紙を毎月発行し、「新型コロナ感染症情報」や地域情報を継続して発信している。</p>			
取組内容	新型コロナウイルス感染症及び地域情報の継続的発信	重点取組項目としての設定	なし					
<p>地区部会事業が中止されているため、令和3年1月より地区部会の広報紙を毎月発行し、「新型コロナ感染症情報」や地域情報を継続して発信している。</p>								
<p>こてはし台地区部会</p> <table border="1"> <tr> <th>取組内容</th> <th>コロナ禍での災害時安否確認訓練</th> <th>重点取組項目としての設定</th> <th>なし</th> </tr> <tr> <td colspan="4"> <p>当該地区部会ではいつ起こるか分からない災害に備え、毎年秋に災害時安否確認訓練を実施している。令和2年度で7回目の実施となる訓練は、コロナ禍のため、「密を避ける」、「簡素化する」という方針に基づき、「個人型・分散型」の簡素化した訓練を実施した。例年は1日で実施し、各班長による報告会も行っていたが、令和2年度は14日間の訓練期間を設け、その期間中に協力員が安否確認対象者宅をまわり、場所を確認(訪問・声かけはしない)、その後各丁目連絡所をまわり報告するという形式で実施された。コロナ禍での実施にもかかわらず、協力員の参加率が94%と前年度を大きく上回る結果が得られた。</p> </td> </tr> </table>	取組内容	コロナ禍での災害時安否確認訓練	重点取組項目としての設定	なし	<p>当該地区部会ではいつ起こるか分からない災害に備え、毎年秋に災害時安否確認訓練を実施している。令和2年度で7回目の実施となる訓練は、コロナ禍のため、「密を避ける」、「簡素化する」という方針に基づき、「個人型・分散型」の簡素化した訓練を実施した。例年は1日で実施し、各班長による報告会も行っていたが、令和2年度は14日間の訓練期間を設け、その期間中に協力員が安否確認対象者宅をまわり、場所を確認(訪問・声かけはしない)、その後各丁目連絡所をまわり報告するという形式で実施された。コロナ禍での実施にもかかわらず、協力員の参加率が94%と前年度を大きく上回る結果が得られた。</p>			
取組内容	コロナ禍での災害時安否確認訓練	重点取組項目としての設定	なし					
<p>当該地区部会ではいつ起こるか分からない災害に備え、毎年秋に災害時安否確認訓練を実施している。令和2年度で7回目の実施となる訓練は、コロナ禍のため、「密を避ける」、「簡素化する」という方針に基づき、「個人型・分散型」の簡素化した訓練を実施した。例年は1日で実施し、各班長による報告会も行っていたが、令和2年度は14日間の訓練期間を設け、その期間中に協力員が安否確認対象者宅をまわり、場所を確認(訪問・声かけはしない)、その後各丁目連絡所をまわり報告するという形式で実施された。コロナ禍での実施にもかかわらず、協力員の参加率が94%と前年度を大きく上回る結果が得られた。</p>								
<p>さつきが丘・宮野木台地区部会</p> <table border="1"> <tr> <th>取組内容</th> <th>密を避けた子育てサロンの実施</th> <th>重点取組項目としての設定</th> <th>なし</th> </tr> <tr> <td colspan="4"> <p>当該地区部会の子育てサロンは、参加者が常時30名を超え、「子育て中のママたちの居場所」として地域に根付いているサロンであるが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から活動の自粛、中止が余儀なくされる中、「子育て中のママたちが気がかり」になったスタッフからの声から開催する運びとなった。7月の七夕のお楽しみ会の開催にあたっては、参加歴のあるママにお誘いのチラシとお手紙、かわいい折り紙を送付した。当日会場で短冊に願いごとを書いて笹に飾ってもらい、1組当たりの滞在時間を5分程度にするなどの工夫を行った。また、例年実施している10月のハロウィンや12月のクリスマスのお楽しみ会開催時のイベントにちなんだ工作を地域の病院や店舗、小・中学校、公民館などに飾ってもらい、子育て中のママたちだけでなく、見た人たちが「ほっこりと笑顔になれる」趣向を凝らした取り組みも実施した。</p> </td> </tr> </table>	取組内容	密を避けた子育てサロンの実施	重点取組項目としての設定	なし	<p>当該地区部会の子育てサロンは、参加者が常時30名を超え、「子育て中のママたちの居場所」として地域に根付いているサロンであるが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から活動の自粛、中止が余儀なくされる中、「子育て中のママたちが気がかり」になったスタッフからの声から開催する運びとなった。7月の七夕のお楽しみ会の開催にあたっては、参加歴のあるママにお誘いのチラシとお手紙、かわいい折り紙を送付した。当日会場で短冊に願いごとを書いて笹に飾ってもらい、1組当たりの滞在時間を5分程度にするなどの工夫を行った。また、例年実施している10月のハロウィンや12月のクリスマスのお楽しみ会開催時のイベントにちなんだ工作を地域の病院や店舗、小・中学校、公民館などに飾ってもらい、子育て中のママたちだけでなく、見た人たちが「ほっこりと笑顔になれる」趣向を凝らした取り組みも実施した。</p>			
取組内容	密を避けた子育てサロンの実施	重点取組項目としての設定	なし					
<p>当該地区部会の子育てサロンは、参加者が常時30名を超え、「子育て中のママたちの居場所」として地域に根付いているサロンであるが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から活動の自粛、中止が余儀なくされる中、「子育て中のママたちが気がかり」になったスタッフからの声から開催する運びとなった。7月の七夕のお楽しみ会の開催にあたっては、参加歴のあるママにお誘いのチラシとお手紙、かわいい折り紙を送付した。当日会場で短冊に願いごとを書いて笹に飾ってもらい、1組当たりの滞在時間を5分程度にするなどの工夫を行った。また、例年実施している10月のハロウィンや12月のクリスマスのお楽しみ会開催時のイベントにちなんだ工作を地域の病院や店舗、小・中学校、公民館などに飾ってもらい、子育て中のママたちだけでなく、見た人たちが「ほっこりと笑顔になれる」趣向を凝らした取り組みも実施した。</p>								

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
4こどもと子育てを支える仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
10相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
検見川地区部会エリア 【人口・世帯数】 12357人、6410世帯 【町内自治会数】 5町内自治会 【高齢化率】 20.1% 【地域の特徴】 検見川神社を中心とした古い町	⑥ 地域福祉活動の担い手を育成するために区ボランティアセンターを活用し、ボランティアの育成・ボランティア活動の推進に努めるとともに、活動を周知し、幅広い分野におけるボランティア体験や地域活動への参加を促すなど、若者や企業ボランティア、高齢者パワーなどを活かし、人材の育成・活用に努めます。	7	ふれあい食事サービス事業のボランティアを通して福祉活動推進員の増員を目指す。また、併せて広報誌でのボランティア募集やボランティア養成講座を実施する。 各年度にボランティア講座を開催するとともに、年1回発行する広報紙でボランティア募集を行う。	担い手の確保を目的に、平成30年度、令和元年度とボランティア講座を開催。令和2年度はコロナウイルス感染症拡大防止のため、事業は未実施。 また、各年度に発行した広報紙で、ふれあい食事サービス及び福祉活動推進員、広報紙作成のボランティア募集も行った。	B	・ボランティア講座の開催、広報紙の発行を通じてボランティア募集を行ったが、なかなか人が集まらない状況で担い手確保には至らなかった。 ・目標の避難所運営委員会が設立されたが、委員会内の意見・意識の共有が難しく、コロナ禍で会議の開催もできず進展がない。	・引き続きボランティア募集のための声かけ、講座開催の方向で進める。 ・避難所運営委員会に対して、地区部会として何が協力できるのかを検討の上、協力していく。
花園地区部会エリア 【人口・世帯数】 21528人、10115世帯 【町内自治会数】 18町内自治会 【高齢化率】 22.8% 【地域の特徴】 JR新検見川駅北側に展開する古くからの住宅地と花見川区役所を中心とする新しい住宅地(高層マンション群を含む)からなる。東大総合グラウンドに隣接、東西に貫く桜並木は有名。西側に花見川、千本桜緑地がある。	③ 地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実に努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。 また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。	1,2,7 8,9	① 災害時用支援対策としての「支え合いカード」の仕組み作りを行い、その発展として ② 日常的な「見守り、安否確認」の実施(水平展開) ③ 生活支援としての支え合い、助け合い活動の実施と展開(一点から面へ) ④ 福祉のネットワークへの協力 ⑤ 講習会への参加	①災害時の支援対策として、「支え合いカード」の仕組みづくりを進めていたが、コロナ禍となり市の方針変更により、感染症に対応した「避難所ごとの使用範囲と使用方法」の全面的な見直しを先行して実施し、一応の成果は得られたが、継続的に検討が必要である。特に感染者対策の収容等が難しい。従来の要支援者対策もこれに含まれる。 また、敬老会代替事業として「感染症予防資材の配布」を地区部会として受託したが有用であった。 ④自治会ルートによる啓発用リーフレットの配布・掲示、地区部会だよりの配布、サロン・子育てサークル、公園清掃・グランドゴルフの実施	A	・全般的にはコロナ禍の影響を大きく受け、対面活動はできなかった。日常的には直接的な活動は抑え気味ではあったが、工夫して対応した。 「花園おせっかい」は継続実施されている。 ・従前の要支援者対策に加え、自宅避難者対策も取り入れる必要がある。 ・イベントが再開された時の要員確保も対策が必要である。	コロナ禍で活動再開の見通しは立てづらいが準備ははしていく。 「日常対応」の強化、「避難所の使用範囲と使用方法」の理解促進、訓練、イベントの再開
朝日ヶ丘地区部会エリア 【人口・世帯数】 10915人、5337世帯 【町内自治会数】 12町内自治会 【高齢化率】 37.0% 【地域の特徴】 戸建、団地、マンションの混じった住宅地。	⑤ 障がいのある人もない人も共に暮らしやすい地域を目指して、相互理解を深めるための啓発や交流の促進(障害者福祉施設等でのボランティア活動など)に努めます。	3,8	障がい者とのふれあいバス旅行や、障がい者も参加しやすいふれあい喫茶を実施し、地域住民との交流の機会を作る。各年度にふれあいバス旅行を1回、ふれあい喫茶を2回実施する。	障害者とのふれあいバス旅行は、平成31年度は参加者38名の内、障害や要介護の方が15名、令和元年度は31名の内20名が参加。令和2年度はコロナウイルス感染症拡大防止のため未実施。 また、ふれあい喫茶については、平成31年度は2回実施、令和元年度は1回(3月は中止)。地域の方のパッチワーク等の作品を展示、作品を通じた交流も生まれ、出展者の創作意欲の向上にも繋がるなど相乗効果も見られた。	A	令和2年度を除き、概ね計画どおりに実行でき、懸案事項であったあんしんケアセンターとの連携も図れるようになってきている。コロナ禍の中、安心・安全に事業を実施していかなければならない。	コロナウイルス感染症の拡大の状況等を勘案し、可能な範囲で事業を実施していくとともに、あんしんケアセンターとも連携を図っていく。
	⑦ 社協地区部会や町内自治会等が、地域における団体活動を充実するため、社会福祉協議会、あんしんケアセンター、行政等が連携し地域を支える様々な福祉情報等の共有と、わかりやすい情報として発信・受信するための仕組みづくり、住民相互の気軽に相談できる場を確保するとともに、団体同士の連携・協力により組織強化に努めます。	9,10	いきいきサロン内での相談受付やあんしんケアセンター・消費生活センターによる講演、広報誌の発行を通して、地域住民が情報を手に入れやすい環境づくりに取り組む。 各年度に広報紙を3回、いきいきサロンを40回実施する。	広報紙については、平成30年度・令和元年度は各3回、令和2年度は2回発行。 いきいきサロンについては、平成30年度は54回、令和元年度は50回(3月は中止)、令和2年度は26回開催。サロン開催中に身近な問題をテーマに専門職による講演会も実施。 また、あんしんケアセンターとの連携を密にするため、講座の依頼や広報紙への寄稿も行ってもらっている。	A		

※ 令和3年3月末現在の千葉市住民基本台帳人口(町丁別年齢別人口・町丁別人口及び世帯数)を基に各地区部会エリアの人口・世帯数を算出しているため、実際の人口・世帯数とは必ずしも一致しません。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
犢橋地区部会エリア 【人口・世帯数】 10578人、5309世帯 【町内自治会数】 15町内自治会 【高齢化率】 30.6% 【地域の特徴】 昔からの農村地域(犢橋町)と昭和30年代に開発された新興住宅地があり、戸建て住宅の多い地域。	① 日頃から隣近所との挨拶などのコミュニケーションを図るとともに、既存の施設を有効利用した居場所づくり、親しみ、ふれあう環境づくりを推進し、地域住民が地域活動に関心を持つきっかけとなるよう、地域のイベント、祭り、町内自治会行事等の周知に努めます。また、子ども・高齢者・障害者等と地域住民が相互交流できる機会を増やし、若い世代を含めた様々な世代間の交流を通して互いを理解し合うとともに、情報交換を促進します。	9	地区部会活動の基本理念をふまえた実践活動の旗印である「あなた運動」を積極的に推進し、活動の拠点である犢橋地域福祉交流館での各種イベント事業や、各町内自治会等が実施する夏祭り等を通じ地域住民相互の交流と絆の醸成に努める。 具体的には、地区部会活動として、①昔遊びを年2回、②流しそうめんを年1回、③餅つき大会を年1回、④ふれあい事業を9団体にて実施する。また、自治会活動として、①夏祭りを4自治会で、敬老会を8自治会で実施する。	地域住民相互交流や絆の醸成を目的とした地区部会主催の活動、町内自治会主催の活動共に、令和2年度を除き目標どおりに実施できた。	A	目標自体は概ね達成できたが、地区部会エリアが広く、各種イベントを実施する上での参集に制約がでてしまう。 また、各種イベントを実施していく上で、各団体役員の高齢化、担い手が不足していることによる事業拡充・強化にも制約がでてきてしまう。	コロナの終息が見えないため、常に感染状況を勘案し、スタッフの健康面を最優先し、実施可能な事業に取り組んでいく。
こてはし中学校区地区部会エリア 【人口・世帯数】 9173人、4107世帯 【町内自治会数】 10町内自治会 【高齢化率】 29.5% 【地域の特徴】 新興住宅地と旧農村	③ 地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実を努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。 また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。	1,2,7,8,9	地区部会活動の基本理念をふまえた実践活動の旗印である「あなた運動」を積極的に推進すると共に、次世代を担う子供達のため昔あそびや子ども食堂の開催を通じ、心身ともに健全なる育成を図る。 具体的には、①昔あそびを年2回、②子ども食堂を年12回、③少年補導点検活動年2回開催する。	こどもの心身の健全な育成を目的とした地区部会主催の活動及び青少年育成委員会の活動共に、概ね目標どおりに実施できた。令和2年度、コロナ禍により子ども食堂が開催できなかったため、フードパントリーを実施した。	A	民生委員を中心として、見守り活動を開始することができたが、町内自治会との連携強化が更に必要である。 また、コロナ禍でもあるため、必要な情報をタイムリーに見守り対象者に伝えていかなければならない。	民生委員に加え、町内自治会との連携強化を図り、活動を継続実施していく。
幕張・武石地区部会エリア 【人口・世帯数】 4776人、2440世帯 【町内自治会数】 3町内自治会 【高齢化率】 24.7% 【地域の特徴】 旧住民と新住民との混合地域。高齢化が進んでいる。現在区画整理が進められている。	③ 地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実を努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。 また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。	1,2,7,8,9	支え合い、助け合いのできる地域社会づくりのため、地区部会と町内会が協力し、要支援者の支援体制を構築する。 計画初年度に各町内会の要支援者を把握し、支援体制のネットワークを作り、次年度に普段できる要支援者への見守り活動(安否確認等)や生活支援(買い物、ごみ出し等)を推進、最終年度に会員相互のステップアップのための各種講座を実施し、各機関との連携を図る。	・平成30年度については、各町内会の災害時における要支援者について把握、支援体制を構築するとともに災害時の要支援者の支援について研修会を実施。 ・令和元年度については、各町内会間で支援体制についての情報交換を行い、支援体制の充実、ネットワークの強化を図った。 また、地域での認知症患者の増加に伴い、「認知症の方への声掛け体験」講座をあんしんケアセンターと連携のもと実施した。 ・令和2年度については、コロナ禍の中、要支援者に対する支援が充分でなく、各機関との連携もあまりとれなかった。	A	1 地区部会と町内会が協力し要支援者の支援体制を構築することができた。 2 会員相互のステップアップのための各種講座を実施し、各機関との連携を図ることができた。 今後も地区部会と町内会が連携し、要支援者への支援対策を充実させていく必要がある。	会員相互のステップアップのため、各種講座を実施し、各機関との連携を図る。

※ 令和3年3月末現在の千葉市住民基本台帳人口(町丁別年齢別人口・町丁別人口及び世帯数)を基に各地区部会エリアの人口・世帯数を算出しているため、実際の人口・世帯数とは必ずしも一致しません。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組テーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性	
花見川地区部会エリア	<p>住民自ら健康への関心を高めるとともに、イベントや講習会、スポーツ、サークル活動など健康づくりの機会への積極的な参加や心身の健康づくりに取り組むとともに、体操・サロン等を通じた日中の居場所づくりや講演会など介護予防活動の推進に努めます。また、糖尿病対策として、標語やポスターの掲示など啓発に努めます。</p>	5	平成30年1月から3月のサークル数71サークルを3年後に、81サークルに増やす。 初年度に75サークル、次年度に78サークル、最終年度に81サークルに増加させる。	平成30年度末は80サークル、令和元年度末は81サークル、令和2年度末は83サークル(令和2年度はコロナ禍で34サークルのみ実活動)	S	・消滅してしまうサークルもあるが、サークル数が増やせたことで居場所づくりという環境面の充実に繋がった。 また、参加者の意識が旺盛なことが貴重である。地域住民全体の超高齢化に伴い、サークルをいかに存続させるかが大きな課題である。 ・死亡・入所・入院・辞退などで一進一退であるが、対象者は増加傾向であり中身を検証する必要がある。 また、コロナ禍で見守りをする者間で十分な話し合いを行えず、対象者との接点も持ちにくい。新しい取り組みを創造していきたい。	<p>・コロナ禍の中、いつ活動が開始できるか不透明であるが、取り組みが消えないよう努めるとともに、屋外活動に誘導したい。</p> <p>・自治会は新年度に入り新しい構成で見守り活動も出発した。前年度の反省点を鑑み、活動の強化を図りたい。</p> <p>・高齢化率50%でも活動できる方策を考えたい。</p>	
<p>地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実に努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。 また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。</p>			1,2,7 8,9	<p>独居高齢者見守り活動の強化 見守り対象者が年10%程度増加する見込みであるため、活動の強化に努める。(平成30年3月の見守り対象者33名を3年後には40名と予想) 初年度33名、次年度36名、最終年度40名を目指す。</p>	見守り対象者は、平成30年度末37名、令和元年度末30名、令和2年度末31名	B		<p>・自治会は高年齢化で弱体化しており、避難所ごとに見直しづくりが進んでいない。高齢化(高齢化率50%)し、名前だけの自治会の再生に取り組みたい。</p>
<p>日頃から地域での防災意識を高めるとともに、災害時における地域防災や、協力体制の仕組みづくりの充実に努めます。また、自然災害等による被害を軽減するため住宅の耐震化や家具などの転倒防止、食品の備蓄等に努めます。</p>			6	各避難所の開設、運営マニュアルの見直し、更新 3年の期間をかけて各避難所の運営マニュアルを見直し、更新をしていく。	一部の町内自治会でマニュアルの見直し、更新の実施。	B		
花見川第2地区部会エリア	<p>地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実に努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。 また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。</p>	1,2,7 8,9	生活支援活動強化のため、担い手不足の解消を図る。 支え合い活動を継続して実施していくとともに、新たな担い手確保のための講座等を年1回実施する。	・平成30年度、令和元年度ともに年間40件程度の支え合い活動を継続して実施。活動のPR及び担い手確保のため、団地内のイベント時に協力を呼びかけるとともに、広報紙『ハンドハンドだより』も発行した。令和2年度はコロナ禍のため活動を自粛。	A	<p>事業を継続実施していくためにも新たな担い手確保が必要であるが、地域全体が高齢化している状況もあり、担い手の確保が難しい。</p>	<p>できる範囲で、支え合い活動を継続するとともに、担い手確保のための広報、講座の実施などを検討する。</p>	
<p>【人口・世帯数】 10827人、6086世帯</p> <p>【町内自治会数】 7町内自治会</p> <p>【高齢化率】 42.4%</p> <p>【地域の特徴】 花見川団地を中心とした住宅地。地区内には図書館、市民センター、児童福祉センターなどが整備されている。</p>								

※ 令和3年3月末現在の千葉市住民基本台帳人口(町丁別年齢別人口・町丁別人口及び世帯数)を基に各地区部会エリアの人口・世帯数を算出しているため、実際の人口・世帯数とは必ずしも一致しません。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
4こどもと子育てを支える仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
10相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
こてはし台地区部会エリア	【人口・世帯数】 5967人、2855世帯	①	認知症や障害者などを抱える家族の方などが、気軽に集える居場所づくり。 計画初年度に研修会への参加、先行事例の調査、居場所づくりの内容の検討を行い、次年度に居場所づくりのための地域内の調査、検討を行い、最終年度に具体的な検討を行い、居場所を確保、活動の実施に繋げていく。	・平成30年度に居場所づくり検討チームを設け、研修会への参加、先進取組団体への訪問研修を行い、認知症への理解を深めた。 ・令和元年度にあんしんケアセンターこてはし台と協力し、地域内に居場所にふさわしい場所を確保することができた。 ・令和2年度は居場所の開設を計画していたものの、コロナ禍のため実現できなかった。	A	・居場所づくりの場所の確保が出来たことは大きな成果であった。開設にあたっての名称、実施回数やスタッフの確保、広報や周知、諸費用等財源の確保が課題である。また、コロナ禍のため、安心安全な実施も課題となってくる。	
	【町内自治会数】 1町内自治会						
	【高齢化率】 47.9%						
	【地域の特徴】 昭和46年に千葉県住宅供給公社が開発した戸建中心(テラスハウス25%)の住宅街。						
天戸中学校区地区部会エリア	③	1,2,7 8,9	「地域支え合いの街づくり」の前進をめざして地域関係者との連携を強化する。 そのため、初年度に「ご近所たすけ合い」「見守り・声かけ」活動の充実を図るとともに、「ふれあい事業」見直しに向けた検討、包括ケア会議等へ積極的に参加する。そして、次年度に「ふれあい事業」の具体的見直しを実施、地域包括ケア会議を通じた地域関係者との連携強化、最終年度に地域包括ケアシステム構築の具体的な検討に参加する。	・平成30年度、「ご近所たすけ合い」「見守り・声かけ」の活動は、コーディネーター会議で検討、より一層のレベルアップが図られた。 ・令和元年度、支え合い活動の担い手確保のために、ふれあい事業の見直しを行い2事業を終了させ、担い手不足を補うこととした。 ・令和2年度、地域包括ケアシステムの構築に向けた地域ケア会議にて支え合い活動を反映させた協議を行う予定であったが、コロナ禍のため実現できなかった。	A	・地域としての支え合い活動の重要性を鑑み、事業の見直しの中で、2事業を終了させたことは評価できる。地域包括ケアシステムの構築に向け、地域ケア会議を通じて支え合い活動の取組について地域に理解を得ていかなければならない。	①居場所の開設、②地域ケア会議への参加、③ホームページについての地域への周知について、地区部会の活動方針の項目に掲げ取組を行っている。
	⑦	9,10	「街づくりホームページ」の情報発信と「若い世代が住んでみたい、住んで良かった街づくり」についての検討。 初年度にホームページ情報発信体制・内容の充実を図り、次年度に地域内の不動産業者等にホームページへの参加を働きかけつつ、「街づくり」についての検討を行う。そして最終年度に「街づくり」の取り組み体制の検討を行う。	・平成30年度、こてはし台の街ホームページを開発・公開することができた。 ・令和元年度、地域の不動産業者等にホームページへの参加を働きかける予定であったが、できなかった。 ・令和2年度、コロナ禍で活動できなかった。	B	・ホームページを公開できたことは評価できる点ではあるが、地域の関係業者等への働きかけができなかったため、地域の関係業者等と話し合い、ホームページについて共通認識を得ることが課題である。	
	②	5	ラジオ体操や、いきいきサロン内で健康体操を実施するとともに、イベントや講習会など、住民の健康づくりのきっかけづくりに努めます。 既存のサロンにて健康体操を実施しつつ、健康に関わる講座を実施する。またラジオ体操の実施に向け、初年度に開催場所の選定、次年度も引き続き開催場所の選定と整備を行い、1ヶ所で実施、最終年度は開始されたラジオ体操を継続実施していく。	あんしんケアセンターの協力により、いきいきサロン内で健康体操を取り入れサロンを実施することができた。また、ラジオ体操の実施に向け、開催場所の選定やスポーツ振興会との協働で実施をする予定であったが、騒音の問題で実施には至らなかった。令和2年度はコロナ禍のため事業自体は実施できなかった。	B	・健康づくりきっかけのため、サロン内で健康体操の実施はできたが、ラジオ体操は実施できなかった。実施に向け騒音等の問題をクリアできる場所の選定が必要である。	
農村地域と新興住宅地域。	⑤	3,8	地区内の障害者福祉施設イベントの企画立案に携わり、実施にあたっては、地域内のボランティアグループや赤十字奉仕団などに協力を呼びかけ、支え合い、助け合いのできる地域社会づくりに取り組む。 継続して3か年、障害者福祉施設イベントに参画し、地域団体をまきこんだ取り組みを行う。	平成30年度、令和元年度と地域の障害者福祉施設の「栗の木」のイベントに参画することはできたが、地域をまきこんでの取組は不十分だった。	B	・イベントに参画したものの、地域団体をまきこむための取組は行えなかった。より効果的な広報活動、地域住民への理解や関心が高まるような工夫を検討していく必要がある。	地域が広範なこともあり、18町内自治会全てを巻き込むことは調整等の面から難しいため、先行して数か所の自治会と連携しながら課題となっていることに引き続き取り組んでいく。
	⑧	6	自治会と協力し、防犯活動を実施すると共に、地域全体の情報交換会を開催し、情報の共有や防犯活動の強化、充実に取り組む。 最初の2年間で情報交換会開催に向けた各団体との調整を行い、最終年度に情報交換会を2回開催する。	地域の防犯意識の向上と活動強化のため、自治会と協力し連携を密にしながら活動に取り組むべく各団体との調整も一部行ったものの情報交換会の開催には至らなかった。	B	・自治会により温度差もあり調整も難しい現状がある。自治会間の防犯意識の向上を図り、地域として意識の平準化をしていく必要がある。	

※ 令和3年3月末現在の千葉市住民基本台帳人口(町丁別年齢別人口・町丁別人口及び世帯数)を基に各地区部会エリアの人口・世帯数を算出しているため、実際の人口・世帯数とは必ずしも一致しません。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
4こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
10相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
さつきが丘・宮野木台地区部会エリア 【人口・世帯数】 10532人、5249世帯 【町内自治会数】 15町内自治会 【高齢化率】 35.2% 【地域の特徴】 古くからある閑静な農村地域と、その後比較的新たにできた住宅地域を含む地区。	⑤ 障がいのある人もない人も共に暮らしやすい地域を目指して、相互理解を深めるための啓発や交流の促進(障害者福祉施設等でのボランティア活動など)に努めます。	3,8	・障害のある人もない人も共に暮らすための「フォーラム」(講演会)を年1回継続開催する。 ・成年後見についての取組みを進める。初年度に、NPO法人協力のもとサークルを立ち上げ、次年度にその広報・周知活動、最終年度にサークル利用者数を増やしていく。 ・団体参加の「福祉まつり」を年1回開催し、障害のある人もない人も共に参加し、すべての人が理解しあえるやさしい町づくりを構築する。また、「お日さまクラブ」も継続して実施していく。	・ユニバーサルデザインの地域づくりのため、平成30年度、令和元年度については、「福祉まつり」の開催、フォーラム(講演会)の開催、「おひさまクラブ(専門職を交えての障害のある方と家族の語らいの場)」の実施、「おひさま後見サークル」の立ち上げを行った。 また、令和2年度はコロナ禍で事業が実施できなかったため、地域住民を対象としたアンケートを実施、必要に応じて個別支援も行った。	A	ユニバーサルデザインを意識した地域づくりを推進することができた。 また、防犯のため合同パトロールの継続実施、防犯意識向上のための啓発に取り組むことができた。	事業を継続実施していく。
⑧ 地域での防犯意識を高め、防犯パトロールの実施や防犯マップの作成・活用など、自主防犯活動を強化・充実することで、安心・安全な町づくりに努めます。	6	警察、行政との合同パトロールを周知するとともに、地域のより多くの団体に参加してもらうことにより、防犯地域をアピールする。 各自治会、町会ごとに実施している防犯パトロールを地域全体で把握し、横のつながりを強化する。 合同パトロールについては、初年度に周知、次年度以降は継続実施していく。また、防犯パトロールについては、初年度に調査等を通して実施状況の把握を行い、次年度にその実施状況の報告、最終年度に防犯意識向上のための講演会を開催する。	・地区部会を中心とした合同パトロールを継続実施、各町内自治会ごとのパトロールも定着してきている。また、啓発物品の配布を通じ啓発活動も行った。講習会はコロナ禍のため中止。	A	また、防犯のため合同パトロールの継続実施、防犯意識向上のための啓発に取り組むことができた。 担い手不足や担い手の高齢化等の問題もある中、事業を継続実施していくことが課題である。		
幕張本郷中学校区地区部会エリア 【人口・世帯数】 25884人、13159世帯 【町内自治会数】 4町内自治会 【高齢化率】 13.2% 【地域の特徴】 JR幕張本郷及び京成幕張本郷駅を中心に沿線を挟んで両側に広がる町。戸建も多く、マンションも比較的多い。	④ 子どもの健やかな成長のため、福祉意識を醸成(福祉教育の充実)する取組を推進するとともに、子育て世帯の孤立防止や見守り活動の推進、子どもの貧困や虐待・DVの早期発見、関係機関への連絡などに努めます。	1,4,8	参加者同士の交流の促進、子育てに役立つ資料の配付など子育て世帯支援機能を強化し、身近な子育ての先輩としてボランティアが参加者の育児の悩みに耳を傾けるなど、内容の充実した子育てサロンの開催に取り組む。 引き続き、赤ちゃんサークルと1歳児ノンノンサークルを年各10回～11回開催する。	【赤ちゃんサークル】については、平成30年度11回開催で187人、令和元年度9回開催で117人参加。 【1歳児サークルノンノン】については、平成30年度10回開催で76人、令和元年度5回開催で39人参加。開催場所の公民館の工事で中止になった月があったが、参加対象者への周知が徹底されず、令和元年度の後半の参加者は全くない状況であった。 令和2年度は両サークルともコロナの影響で全て中止。	B	令和元年度の1歳児サークルを除き目標は概ね達成できた。 コロナの感染拡大が終息しない中、①どのような対策をどこまで行えば安全に実施できるのか、②サークル活動を再開する場合、その周知方法が課題である。	・新規参加者向けには、地域保健推進員、保健センター育児サークルからの案内を強化し、月齢児、1歳児サークルへの周知方法が課題のため、再開に向け効果的な周知方法の検討を行っていきたい。
畑地区部会エリア 【人口・世帯数】 6174人、2782世帯 【町内自治会数】 6町内自治会 【高齢化率】 32.5% 【地域の特徴】 古くからある閑静な農村地域と、その後比較的新たにできた住宅地域を含む地区。	③ 地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実とともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。 また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。	1,2,7,8,9	地区部会を中心に支え合い体制を構築する。 3年の計画期間を通して、支え合い体制を構築すべく各自治会にて検討、地区部会定例会にて情報交換を実施し、初年度に1自治会、次年度に3自治会、最終年度に6自治会で活動を実施する。	平成30年5月、地区部会エリア内の75歳以上の独居の方を対象に、民生委員と地域のボランティアにより活動を朝のゴミ出しに限定し実施。また、近隣の障害者施設と連携して買い物支援の仕組みづくりを行い試行した。	A	・独居高齢者が多いという地域的な課題がある中で、ゴミ出しの支え合い活動が開始されたため、目標は概ね達成できた。担い手も限定されているが、今後も継続実施していくことが必要である。	・事業を継続実施していく。 ・パトロールを可能な範囲で継続実施しつつ、「向こう三軒両隣」の意識した近助同士の防犯を呼びかけていく。
⑧ 地域での防犯意識を高め、防犯パトロールの実施や防犯マップの作成・活用など、自主防犯活動を強化・充実することで、安心・安全な町づくりに努めます。	6	防犯パトロールを全自治会にて実施する。 初年度に4自治会、次年度に5自治会、最終年度に6自治会で実施する。	防犯パトロールを4自治会で継続して実施している。	B	・防犯パトロールを継続して実施はしているが、担い手の高齢化で事業継続することが難しくなっている自治会もある。		

※ 令和3年3月末現在の千葉市住民基本台帳人口(町丁別年齢別人口・町丁別人口及び世帯数)を基に各地区部会エリアの人口・世帯数を算出しているため、実際の人口・世帯数とは必ずしも一致しません。